

令和2年度第1回砂川市総合教育会議

○日 時 令和2年11月20日（金）10：00～11：08

○場 所 砂川市役所中会議室

○出席者

（構成員）	市 長	善岡 雅文
	教育長	高橋 豊
	教育長職務代理者	平間 芳樹
	教育委員	中村 吉宏
	教育委員	住 亮太郎
	教育委員	皆上 嘉代

（事務局）	総務部長	熊崎 一弘
	政策調整課長	井上 守
	政策調整課長補佐	
	兼企画調整係長	谷地 雄樹

（教育委員会事務局）	教育次長	河原 希之
	学務課長	是枝 貴裕
	学務課指導主事	松田 安弘
	学務課課長補佐	小島 武史

○議事録

熊 崎： 本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただいまから、令和2年度第1回砂川市総合教育会議を開催します。はじめに市長より挨拶を申し上げます。

市 長： 皆様ご苦勞様です。時間のこともありますので、すぐ次第に入りたいと思いますのでよろしくをお願いします。

熊 崎： これ以降の進行については、設置要綱第4条に基づき、議長となります市長にお願いします。

市 長： それでは（1）小中学校適正規模・適正配置について、事務局より説明願います。

小 島： （資料の通り説明）

市 長： 小中学校適正規模・適正配置について、委員さんから何かあればお願いしたい。

住 民： P T Aからは、とにかく早くして欲しいという声がある。

市 長： 私もそう思う。ただ各学校の問題もあるだろうから、市長が勝手に進めるという訳にもならないと思う。時間がかかる理由としては財政的なものであるのか。

教育長： 財政的なものではなく、中学校はスクールバスと教育課程が課題。統合すると一緒に教育課程になるので、その準備を1年で仕上げるといのはなかなか難しい。準備には取り掛かっていますが、教育課程にはやはりそれなりの時間を要する。

市 長： 学校のシステマ的なものか。

教育長： 概ねそう。

市 長： あまりにも生徒が少なく課題が出てくることは前もってわかっていた。今は早くしてほしいという声しか聞こえないし、昔の人が多かった時代の統廃合と違って、地域がどうという論議では無く、子どもたちが主体になっている。議会でも地域が廃れるといった、昔あったような意見もあるが、今は子どもたちのためにはどれが一番いいのかを考えるのが優先である。

教育長： その視点で進めている。

市 長： やはり学校と行政と違うのか。行政だったらすぐに動くことも可能だが、学校現場を考慮してとなると難しいのか。

教育長： どちらかと言えば学校現場同士。砂中と石中同士。教育課程を一緒にしないと統合はできない。教育課程とは授業は何時間とか、どういう内容を教えるかとか決めるもので学校ごとに校長の権限で作っているもの。

市 長： 授業の進め方ということか。

教育長： 例えば砂中が1学年3クラス、石中は1クラスであるが、それぞれ教科担任がいて教科ごとに教えるため、進み方が学校によって異なってくる。これを全く同じにしないとならないため、それらに時間がかかる。

市 長： それは単年度ごとのことか。

教育長： そう。

市 長： ある程度、統合を見据えた中で、それらの調整はできなかったものか。統合を前提して、課題となる事項を挙げていくなど、本来は先に手を付けて同時進行でやるべきではなかったのか。

教育長： 中学校では2年前からやっている。うまくいかないのではなく、それぞれの学校で違うことをやっている部分がありそこを全く同じにするのに時間がかかっている。

平 間： 校長が変われば教育課程が変わるので、前の年と違ったことを始めるというものもある。また、何年かごとに変わる学習指導要領もあるが、これは変わるのわかっているのだから、何年か前からは取り組むことはできる。学校が違えば、いろいろやはり統一しなければならないことや、協議しなければならないことは出てくるが、やってやれないことはなく、校長がやるつもりになれば実行するので、それは適正配置においても不可能ではない。

教育長： それで、計画では何とか令和6年にとしている。

市 長： 市長になった時から、将来の人口動態を見ると、統合で年数がかかるなら、早いうちに手を付けてという思いがあった。人口が減っても生徒は減らないという意見が当時委員会であったのではないか。

昔は学校統合となるととてももめた。今はみんな人口がここまで減少することを知っていて、その中で、部活動への影響なども含め、子どもたちにとって一番いい方法はやはり、統合を早く進めたほうがいいのではないかという考え方。

時間がかかるのも当然だと思っている。昔は地域が反対したりしていた。子どもたちはそっちに置いて、地域の人たちが発言することもあった。私は当時から子どもたちにとっていい方法をとっていた。当時は、行政的なところに阻害要因があったが、今はそんな時代ではない。保護者は直ぐに進めて欲しいと言っている。行政は教育委員会と別組織なので、市長の判断で直ぐに動くことはできるが、ただ教育の場合は、二重行政ではないが、教育長と学校現場という部分では調整が必要なところである。

皆 上： そう思う。

教育長： 学校現場との関係がきちんとしていても、学校間の調整には時間がかかる。

市 長： 統合を早くして欲しいとする意見は、無茶なことを言っているようにも見えない。ごく当たり前のことを言っている。統合を前提に始めから砂川中学校に入学したいという意見も理解できる。

教育長： 個々のケースにより、きちんとした理由・申請があれば認めようと考えている。

市 長： その場合、2校あるのに、ふた開けたらほとんど1校に寄ってしまうことはないのか。

教育長： 全員とはならないと思う。2、3人ぐらいに考えている。これまでも本人が希望する部活動が石山中学校になく、砂川中学校にその部活がある場合は認めている。そのような事情があれば容認している。なお、石山中学校は既に1学年1学級になってしまったため、これにより学級数が減るということはない。

市 長： 石山中学校の1学年1学級はいつからか。

教育長： 全て1学級になったのは昨年度から。

市 長： 適正配置に取り掛かるのが遅かったか。

平 間： 今回の提案で保護者や市民から早くやったほうがいいのかという声があがっているということが確認できたので、統合を円滑に進める上ではよかったと思う。

市 長： 保護者や子どもたちも困っていると思う。反対意見がないのなら、教育委員会で進めていくことで、まかせたい。

中 村： 適正配置や小中一貫制度については、説明会や検討委員会の中でも概ね同意は得られている。その中で課題として残っているのが学校建設の関係で、小中一貫型で併設校とする考え方と、義務教育学校という施設を1つにするとした考え方がある。教育委員会としては、コスト面も含めて検討しているが、最終的に学校建設にあたり、予算や財政的な面については、市長の権限であり、議会の承認も必要になる。来年度から第7期総合計画も始まるが、その中にプランとしてあげてもらえると思っているが、そのタイミングと財政的な面と予算に対する考え方についてはどうか。最大限市民の要望を踏まえてもらえるとは思っている。

市 長： 予算については必要なものは対応する。問題は、どういう形になるのか決まらないうと予算がつけられないということ。

中 村： これは私たちが心配することではないかもしれないが、あまり大きな財政負担が伴うと、ストップがかかる心配もある。

市長： 子どもたちが学びやすい学校を作るのが行政の役割であり、あってあたりまえの経費はかかる。砂川は行政面積はそんなに広くないが、小学校で5校もあったのは、余裕があったということかもしれない。普通であれば早い段階で統合をしてしまっている。うちは各校の耐震化も進めたし、国からの緊急対策で整備を進めた。あの時は国の補助金で5～6億くらいで、市の負担は100万円くらいで事業ができた。形が見えてくれば、予算はしっかりつけるつもりでいる。スクールバスでも経費は掛かるだろうが、学校数が減ることで経費も低減されると思うので、どの程度落ちるかは分からないが、違う形では地域の校舎も残すことは状況により必要あるのかもしれない。今後、適正配置の方向性を定めて、その上で校舎建設等の事業費が出てくる、という考え方でよいか。中学校だけ早くなることは考えられるのか。

熊崎： 中学校は校舎がそのまま使えると聞いている。

教育長： 学校建設は令和3年度の早いうちに決める。併設か、一部共有か、その費用と丸ごと建替えた場合の比較も含めて精査する。

市長： あまり時間を掛けない方がよい。あちこち聞くとみんな待っている。いつになるのかという声が多い。中学校だけ先にといった声もある。ただ、建て替えると膨大な費用がかかるため、ある程度財政も減らしていかないと。うちは過去から財政の健全化を進めているため事業も継続できているし、公共事業もバランスよくやってきた。

砂川中学校は建て替えた平成7年から、もう25年経つのか。

教育長： 全て統合が完了する頃には、30年以上となる。

市長： 統合して、今の施設はそのまま使うことにしても、後で小学校と中学校はまとめて建て替えるとなると、工事が重なって借金が残っていくから、時期を少しずらすというやり方でもいいものか。

皆上： このままいくと中学校は2クラスになる。

市長： 建て替えを待つとなると間に合わないということか。

皆上： そう。今は1つの中学校を使って、建築するときは人口動態や予算をみながら、時期をあわせていく必要があると思う。

市長： 建て替えられたらそのままいくというのは決定しているということか。

熊 崎： 統合後、中学校の現校舎を使うというのは決まっている。小学校と統合するときにどうするか、というのが来年度という話。

市 長： 小学校の建て替えだけきちんとしておけば、後はスクールバスの問題か。

教育長： スクールバスは、中学校統合時に、基本的には石山中学校区を対象に運行する。この件に関してはなるべく早く決定したいと考えている。

市 長： 今の学校はそのまま廃止とはならないのか。何らかの形で残していくのか。全て耐震化はされているし、とても古いという訳ない。エアコンは設置しているし、ある程度使える施設である。

いずれにせよ適正配置は1日でも早く進めて欲しい。

(2) 以降は非公開